情報公開文書

研究に関するお知らせ

課題名：解析・データセンターのゲノムデータベース、臨床情報データベースの利活用に関する研究

研究代表者：井元　清哉

所属：東京大学医科学研究所ヒトゲノム解析センター

東京大学医科学研究所では、全ゲノム情報から患者さんのがん細胞の全ゲノム情報を解析し、その結果を実際のがんの治療に活かすための研究を進めています。現在、AMED「革新的がん医療実用化研究事業」（以降 AMED 研究）の支援を受け、全ゲノム解析等の成果をより早期に患者さんに還元するための多機関共同研究が進んでいます。

このたび、これらの研究において取得されたゲノムデータ及び臨床情報を本研究に使用させていただきたく、以下にお知らせいたします。

公募の種類	がん種	研究代表者	研究代表機関	令和３年度の症例数	
A班：患者還元班（体制構築班）	難治がん等	山本昇	国立がん研究センター	500症例（※）	計 9,900症例
	難治がん等	浦上研一	静岡がんセンター	500症例（※）	
	難治がん等	上野貴之	がん研有明病院	500症例（※）	
B班：患者還元班（領域別班）	消化器がん	柴田龍弘	東京大学	1,400症例	
	血液がん	南谷泰仁	京都大学	1,400症例	
	小児がん	加藤元博	東京大学	1,400症例	
	希少がん	松田浩一	東京大学	1,400症例	
	婦人科がん	森誠一	がん研有明病院	1,400症例	
	呼吸器がん他	河野隆志	国立がん研究センター	1,400症例	
C班：解析班		井元清哉	東京大学医科学研究所	A班、　B班合わせて 9,900症例すべての症例の解析	

AMED 研究の体制

東京大学医科学研究所では、国立がん研究センターと共に C 班：解析班の活動として A 班、B 班の研究班からゲノムデータ・臨床情報を収集し、データベース化を進めています。また、解析班においてゲノムデータ解析を実施し、その結果を患者さんに有効な医療として活用するためのレポート作成についての研究を推進しています。ゲノムデータ・臨床情報からより正確な診断や治療法の選択に結びつけていくためには、がんの種類ごとに解析するだけではなく、さまざまな種類のがんのゲノムデータを統合して解析することが重要となります。そこで、解析班では A 班、B 班の研究班と共に、収集される 9,900 症例（令和３年度（上記表））、2,000 症例（令和４年度）のゲノムデータを横断的に解析する計画を立てています。

対象となる方は、これまでに以下の研究にご協力いただいた患者さんです。

AMED 研究班の解析班には、下記の倫理審査において承認されたゲノムデータ、臨床データが匿名化されたうえで、セキュリティの担保されたサーバーにおい

て格納されています。もちろん、ゲノムデータ・臨床情報は厳重に保護しますのでご安心ください。

【A 班】

- 「がん患者の臨床検体を用いた、治療効果および毒性に関する遺伝子のプロファイリング研究」（研究代表者：山本 昇（国立がん研究センター中央病院先端医療科））固形腫瘍（乳がん、消化器がん、膵臓がん、肺がん、脳腫瘍など）
- 「プロジェクト HOPE 検体における全ゲノム解析の患者還元に関する研究」（研究実施責任者：浦上 研一（静岡県立静岡がんセンター研究所 副所長））難治性がん（肺がん、食道がん、肝および肝内胆管がん、胆のう・胆管がん、膵臓がん、卵巣がん、脳・中枢神経系がん等）、AYA がんなど
- 「全ゲノム情報等の高精度かつ迅速な患者還元を通じた高度化がんプレシジョン医療の実践」（研究責任者：上野 貴之（がん研究会有明病院先端医療開発センター がんゲノム医療開発部　兼　乳腺センター　乳腺外科　部長））乳がん、消化器がん、肺がん、婦人科がん、頭頸部がん、骨軟部腫瘍、泌尿器がんなど

【B 班】

- 「消化器難治がんの分子遺伝学的解析による創薬開発・全ゲノム医療基盤構築」（研究代表者：柴田 龍弘（国立がん研究センター研究所 がんゲノミクス研究分野））肝臓がん、胃がん
- 「食道がんの全ゲノム配列データ及び臨床情報の収集・解析と創薬開発・全ゲノム医療基盤構築」（研究責任者：渡邊 雅之（がん研究会有明病院 副院長 兼 消化器外科部長））食道がん
- 「造血器腫瘍における遺伝子異常の網羅的解析」（研究責任者：小川 誠司（京都大学大学院医学研究科 医学専攻腫瘍生物学講座腫瘍生物学））血液がん
- 「造血器腫瘍における遺伝子異常の網羅的解析」（研究責任者：南谷 泰仁（東京大学医科学研究所 造血病態制御学分野））血液がん
- 「がんゲノム医療の推進に資する小児がんの包括的ゲノムデータ基盤の構築」（研究責任者：加藤 元博（東京大学医学部附属病院小児科））小児がん
- 「骨軟部腫瘍のゲノムコンソーシアム運営とマルチオミックス解析研究」（研究責任者：松田 浩一（東京大学医科学研究所 シークエンス技術開発分野））骨軟部腫瘍
- 「固形腫瘍における遺伝子異常の網羅的解析」（研究代表者：小川 誠司（京都大学大学院医学研究科 医学専攻腫瘍生物学講座腫瘍生物学））褐色脂肪腫
- 「多機関共同研究によるマルチオミックス解析に基づく脳腫瘍の発生・進展の分子機構の解明」（研究代表者：鈴木 啓道（国立がん研究センター研究所 脳腫瘍連携研究分野））脳腫瘍
- 「網羅的ゲノム解析による膵腫瘍ならびに十二指腸腫瘍、胆道腫瘍の本態解

明と新規診断・治療法の開発」（研究責任者：谷内田 真一（大阪大学大学院医学系研究科がんゲノム情報学））胆道腫瘍、膵腫瘍

- 「肺腫瘍、胸腺腫瘍患者の臨床検体（組織や血液などを用いたゲノムプロファイリングに関する研究」（研究責任者：谷内田 真一（大阪大学大学院医学系研究科がんゲノム情報学））神経内分泌腫瘍（膵腫瘍）、胸腺腫瘍
- 「全ゲノム解析による難治性卵巣がんの本態解明と新規治療標的の同定」（研究責任者：森 誠一（がん研究会がんプレシジョン医療研究センター次世代がん研究シーズ育成プロジェクト プロジェクトリーダー））卵巣がん
- 「本邦のがんゲノム医療に資する遺伝子プロファイリング検査の改良・改変・実装」（研究代表者：河野 隆志（国立がん研究センター研究所 ゲノム生物学研究分野 中央病院 遺伝子診療部門））呼吸器がんなど
- 「上部消化管腫瘍のゲノム･遺伝子解析とその臨床病理学的意義の解明」（研究責任者：牛久 哲男（東京大学医学部附属病院病理部・人体病理学・病理診断学））胃がん
- 「網羅的ゲノム解析による膵腫瘍ならびに十二指腸腫瘍、胆道腫瘍の本態解明と新規診断・治療法の開発」（研究責任者：三森　功士（九州大学病院別府病院外科））膵腫瘍、十二指腸腫瘍、胆道腫瘍

情報を利用する機関：東京大学、国立がん研究センター、大阪大学、静岡がんセンター、がん研有明病院、がん研究会、京都大学、九州大学、理化学研究所、国立成育医療研究センター

研究期間：2022 年 3 月 17 日～2027 年 3 月 16 日まで

解析班において保管されているゲノムデータ・臨床情報を、本研究でのがん種横断的な解析に利用してほしくない患者さんは、あなたが受診なさった医療機関にご連絡いただきますようお願い申し上げます。

また、研究に関するご質問等がある方、詳しい情報が必要な患者さんも、下記までお気軽にお問い合わせください。

（本研究に関するお問い合わせ窓口）
〒108－8639
東京都港区白金台４－６－１
東京大学医科学研究所
ヒトゲノム解析センター
健康医療インテリジェンス分野
教授　井元　清哉
電話：03-5449-5615